

**NEJM 勉強会 Case 28-2016 : A 31-Year-Old Woman with Infertility**

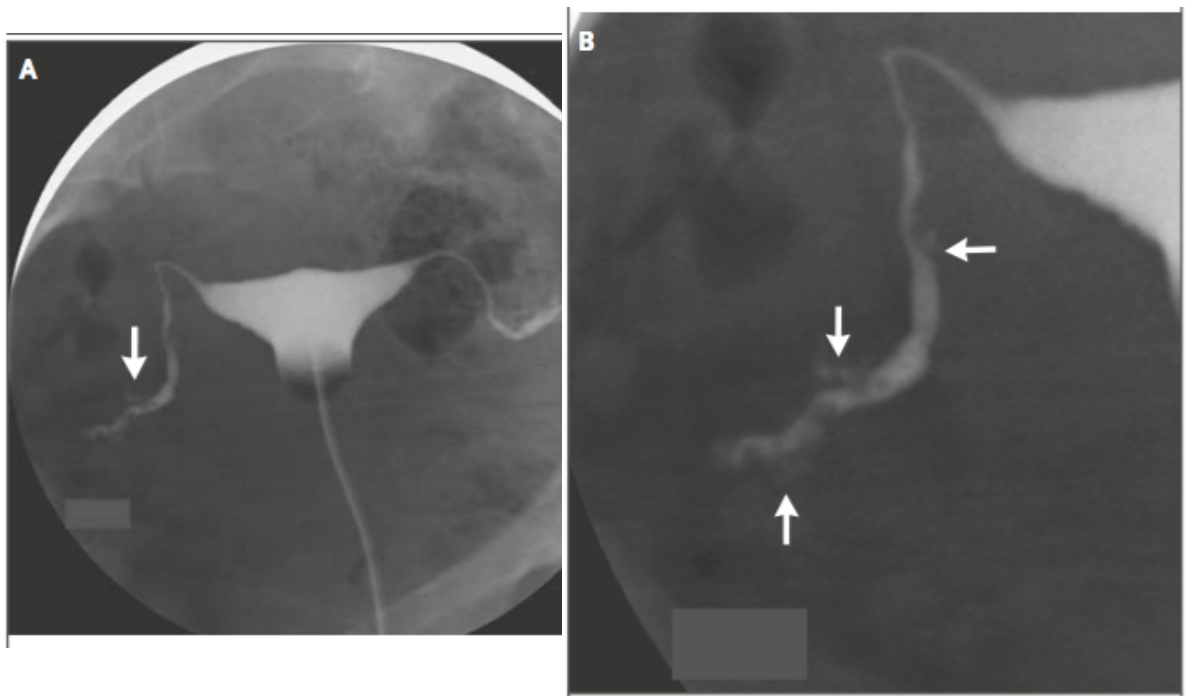
**B プリント**

2016 年 10 月 27 日 中安杏奈

本症例において、行われた不妊検査

<子宮卵管造影>

前医にて実施。子宮内腔の大きさは正常、左右対称で粘膜の不整や欠損は見られなかった。近位卵管の太さは正常だったが、卵管膨大部は拡張しており造影の欠損や憩室様の所見も見られた。腹腔に造影剤が自由に漏出していないことから、両側の卵管閉塞が疑われた。



<経膣エコー>

初診から 23 日後 (day3) に経膣エコーを行い、正常大の卵巣に直径 15mm 程度の複数の卵胞が見られた。

<内分泌>

LH 4.6U/L (2.0-15.0)、FSH 3.8U/L(3.0-20.0)、エストラジオール 25pg/mL (20.0-145.0)。TSH、PRL 値は異常なし。

<性感染症>

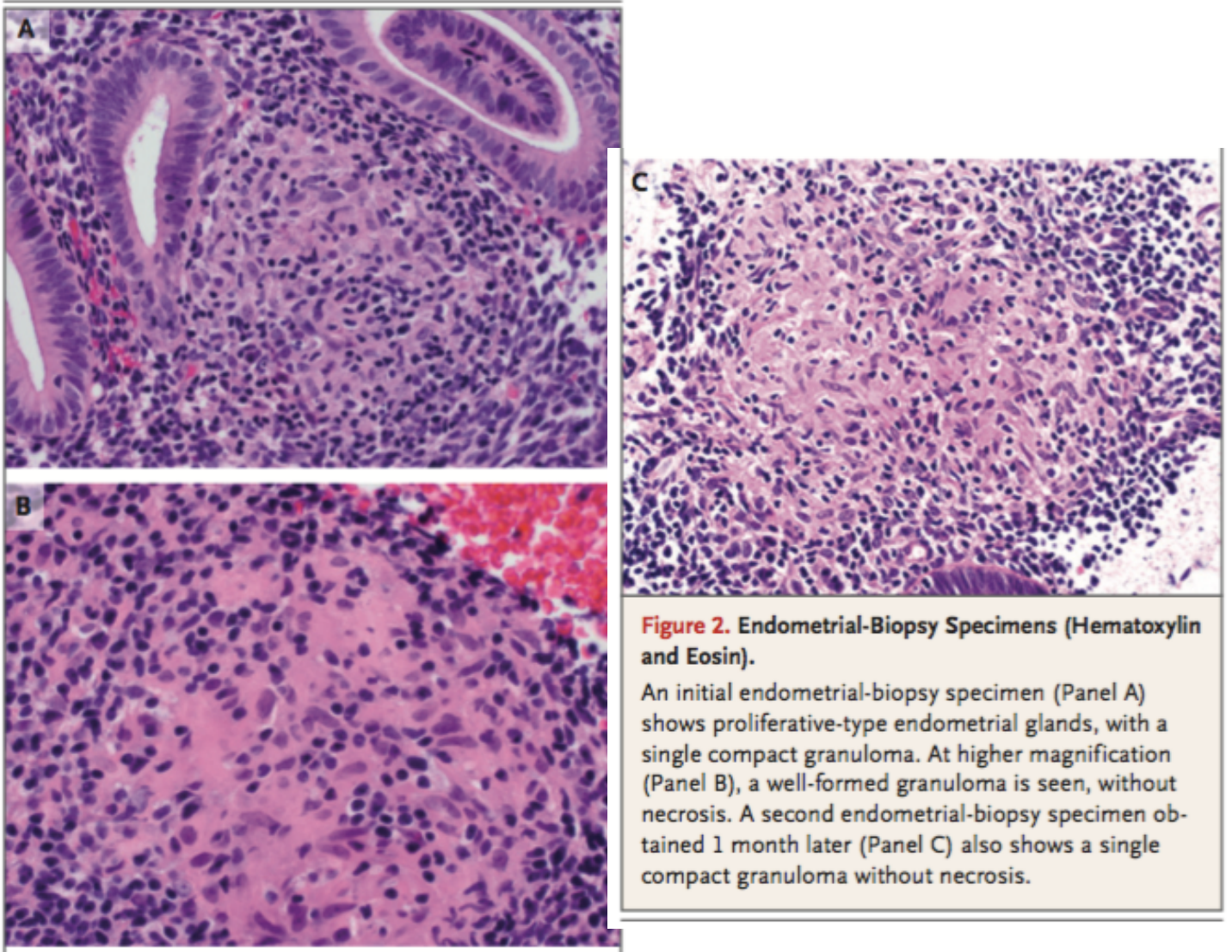
Chlamydia trachomatis と Neisseria gonorrhoeae の核酸検査は陰性だった。

<子宮鏡>

子宮内腔には癒痕・ポリープ・子宮筋腫などはなく正常

<子宮内膜生検>

HE 染色では内部に非乾酪性肉芽種を含む軽度の子宮内膜増殖が認められた。肉芽種内には極性はなく、抗酸菌染色、Fite staining (らい) , Grocott 染色では微生物は見られなかった。



Problem List

#不妊

#卵管閉塞

#卵管憩室

#子宮内膜の肉芽種